



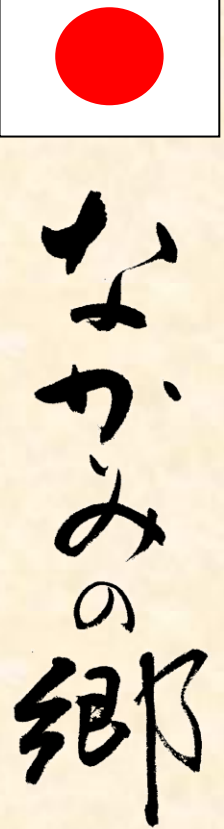
古事記編纂1300年記念奉納大絵馬
和泉市 藤原重夫(祐寛)先生画

古事記編纂一三〇〇年

へんさん

本年、「古事記」が編纂されてから一三〇〇年を迎えました。この「古事記」は「日本書紀」とともに「記紀」とよばれ、日本最古の歴史書とされています。「記紀」とともに編纂を命じたのは第四十代天武天皇(六七三年〜六八六年まで在位)で、「古事記」は七十二年、「日本書紀」は七二〇年に編纂されました。

同じ時期に別々の歴史書が編纂されたのは、記述方法の違いや体裁の違いから、「古事記」は国内にむけて天皇家の正統性を表すための書物、「日本書紀」は対外的、国外にむけて日本国の存在を示すための正史であると考えられています。



祝祭日は国旗「日の丸」を揚げましょう

君が代は 千代に八千代に
さざれ石の いわおとなりて
こけのおすまで

「古事記」は記憶力の優れた稗田阿礼(ひえだのあれ)が読み習った物語(※帝紀・旧辞)を太安万侶(おおのやすまろ)が編纂したもので、多くの人々が容易に読めるように工夫され、当時の公用語であった漢文ではなく、万葉仮名を用いて記されています。上・中・下の三巻からなり、上巻には八百万の神々が活躍する神話の物語がつつられており、私たちの祖先が日本の国の成り立ちについてどのように考えていたのか、また豊かな自然と共に暮らす人々の生き方や死をどのように捉えていたのか、日本人の自然観・死生観をひも解くことができます。上巻の天地創造・国生み・神生みと日本国の創生から始まり、中巻は初代・神武天皇から応仁天皇(奈加美神社の主祭神)まで、下巻は仁徳天皇から推古天皇までの事跡が記されています。今上天皇は初代神武天皇から第一二五代を数えます。日本の天皇は神話から歴史へ、そして現在に至るまで、一度も絶えることなく連続と継承されてきました。わが国は世界に類例のない素晴らしい伝統を持つ、尊く美しい国です。

古事記編纂一三〇〇年を契機に、改めて日本国の成り立ちに思いを馳せ、神々が生み出した自然風土への畏敬、感謝や祈りの祭り、村や国をつくってゆく和の心を再認識し、日本人であることに誇りを持ちましょう。

※帝紀 歴代天皇の御名・事跡などの記録

旧辞 神話・伝説・氏族の縁起や芸能の伝承

御田植え祭



例年、田植えがひと段落ついた頃、六月二十日に御田植ええ祭を行い、境内に篝火を焚き、害虫を火によって追い払う虫送りの神事を行っております。

今年はまだなかつし保育園の園児さんに紙あんどんを作って頂き、境内に並べてろうそくに灯かりを点し、幻想的な雰囲気で祭典を行いました。

なかつし保育園、米作りの体験学習を行っている日新小学校の五年生の皆さんにお参り頂きました。

夏越の大祓

六月三十日に半年間の罪・穢れをお祓いする夏越の大祓・茅の輪神事を執り行いました。生憎の雨天でしたが、一五〇人を超す大勢のお参りを頂き、社務所の中で神事を執り行いました。



年末の大晦日にも残る半年間の罪・穢れをお祓いする師走の大祓・歳末神恩感謝祭を執り行う予定です。年末に大祓をお受けになられ、清々しい新年を迎えましょう。

第12号
平成24年
11月15日発行
奈加美神社
泉佐野市中庄 834
電話 462-7080

上瓦屋地車の紹介

上瓦屋地車会



現在のの上瓦屋の地車は平成十二年に植山工務店の製作により新調されました。

平成四年に地車の新調が決定し、「日本一の地車を！」を合言葉に新調委員会を立ち上げ、彫刻・太鼓・飾り・記録・総務の五部会を組織し、各部の担当者がそれぞれ専門の知識を駆使して資料集めに精を尽くしました。

特に彫り物にはこだわり、正面の番号持ちには「佐野川稲荷」、大連子には「頭如上人命拾い」、見送りには「上田宗箇敵がくれ」など、地元上瓦屋にゆかりのある図柄を取り入れました。

このほかの太鼓や飾りにもこだわりをもって取り組み、泉佐野市初の平成新調地車で、高さ三・八六四m、全長四・二三五m、大屋根幅二・五三〇mの規模を誇る大型地車が完成しました。

この地車は秋の豊かな恵みを喜び、感謝を込めて奈加美神社の秋祭りに曳き出します。老いも若きも村人みんなが楽しめるお祭りです。上瓦屋の顔でもあるこの立派な地車が未来永劫に存続することを願ってやみません。小さなお子さんから親御さんまで、多くの方々のご参加をお待ちしております。



今後ともご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。

番号持ち「佐野川稲荷」



佐野川稲荷御神影板絵



地車正面 番号持ち

して始まったと言われていますので、上瓦屋の地車には大変ふさわしい彫り物です。

大連子「頭如上人命拾い」

織田信長から追われた頭如上人が、石山本願寺から船で紀州雑賀へ向う途中嵐に遭い、佐野川河口の北出の浜に流れつき、村長の新川與市が深い井戸、もしくは深く穴を掘ってその中にかくまい、上人は難を逃れ命拾いをしたと言う伝承です。

見送り「敵がくれ」



地車見送り 敵がくれ

大阪夏の陣の榎井合戦で、徳川方の浅野隊は佐野川付近まで出陣しましたが、途中榎井まで退きました。その時茶人としても有名な浅野方の武将・上田宗箇が、敵迫り来るなか、隠れていた竹藪の竹を切り、茶杓を二本作ったという伝承です。

現在は奈加美神社に合祀されていますが、上瓦屋には佐野川と山出にお稲荷さんが祀られていました。この板絵は元和元年（一六一五）に描かれたもので、右手には鎌、左手には稲を持つ比較的若いお姿のお稲荷さんです。

神道豆知識 ～其の八～ 鳥居



鳥居は神社のシンボルマークとして地図記号にもなっています。この鳥居は神社の内と外を分ける境に建てられ、鳥居の内側は神様が鎮まる御神域となります。

その起源は諸説ありますが、古事記などの神話にも求められます。太陽神・天照大御神が天の岩屋にお隠れになると世界が真っ暗になってしまったので、天照大御神にお出まし頂こうと八百万の神々が相談をして、はじめに長鳴き鳥と言う鶏を鳴かせました。この時に鶏が止まった木を鳥居の起源とする説や、通り入る意味であるとの説、外国からの渡来したものとする説などがあります。

材質は木や石などが多く構造は様々です。伊勢神宮の神明鳥居や、三輪明神の三輪鳥居など数十種類あると言われています。

奈加美神社の鳥居は石造り明神型の鳥居で、明治12年に建立されたものです。不思議なことに正面向かって右側の柱の下方には、元々の石の模様なのか？ハート型の模様が浮かび上がっています。一度探してみてください。



ご祈祷のご案内

お宮参り・安産祈願・七五三
厄除け・車のお祓い
地鎮祭・住宅入居のお祓い
神道家霊祭等、各種お祓い
受付致しております
お電話にてご予約お申込み
下さい

公式ホームページ開設
<http://www.nakami.org>